

供覽

圖書

拓本

得能

印

心八

一七  
三二七  
二

# 復余書

小宮 共儀

大正七年二月二十五日達梁物調査、爲支那福  
州へ出張汝余、三月四日右序、以て汕頭へ出張  
汝余、三月十四日右序、以て廣東へ出張汝余、  
調査、以て遂に事限別紙、通り及復余書也  
大正七年七月一日

技師 福島 五一  
技手 小川 一郎

臺灣總督明石元三郎殿

二

例二一

620

福州ニ於テ病院ニ充用スベキ建物調査

福州ニ於テ病院設立ノ為メ福州博愛會(廈門ニ於テ病院ヲ經營セル如キ日支合辦ノ財團法人ニシテテソノ名ハ確定的ノモノニアラザルモ從來コノ名ヲ以テ名稱トセリ)ガ選定セル建物ニ就テ調査セル所左ノ如シ

建物ノ位置面積及構造大様

建物ハ福州城外南台ノ東端ニ位シ馬路(万壽橋ノ詰ヨリ市街ノ東ヲ廻リ城内ニ通ズル新設道路)ニ面スルニ階建煉瓦造屋根瓦葺ノ洋式建物ニシテ大正五年二月ノ竣ユニカ、ル

総延方丈数 二百十方丈〇七

(真延坪約五百八十三坪五二)

内煉瓦造ニ階建階上階下各

本建物ハ茶園(料理店)ノ目的ニ建築セラレタルモノ  
ニテ各室左ノ如シ

本家内一部三階	七八丈二	(約二九坪)
煉瓦造平家建	五丈六	(約一六坪)
木造平家建	一三丈三	(約三七坪)
各室ノ構造具他	三三丈四	(約九二坪)

本家及煉瓦造平家建

車寄床モルタル塗周圍化粧煉瓦積天井漆喰塗

三方吹抜キ

玄關周圍漆喰塗床天井具他前同断

(車寄ヨリニ又上リ)

事務室床板張具他前同断(玄關ヨリ、貳尺五寸上リ)

客室階下大小九ヶ所階上十ヶ所三階ニヶ所

床天井具他共前同断

寢室床周圍前同断顯シ小屋

大廣間床周圍前同断天井漆喰塗

舞台床大廣間ヨリ四尺上リ其他凡テ前同断

大廣間側休憩所床モルタル塗縁石及階段付屋蓋ナシ

舞台下物置床土間天井顯ハシ

便所

床板張周圍天井漆喰塗

ベランダ階上階下共一方開放シ手摺付

後方木造平家及廁

炊事場

ニヶ所

客室

大小不一ヶ所

炊事場客室及廊下共凡テ床土間各間切リハ  
炊事場界ノ煉瓦造ヲ除キ木製板張天井顯シ

廁

煉瓦造床板張

建物ノ構造其他

敷地ハ前面及側面ニ空地ヲ有ス尚福州各街ヨリノ交  
通ハ閩江渡船場ニ近ク且馬路ニ接スルヲ以テ最便ナリ  
建物ノ平面ハ四字形ニテ中庭ヲ有シ採光・換気ニ  
適ス本設計ハ嘗て我國ニ留學シテ工學ヲ專修セル  
技師ノ手ニナリ其他ノ構造手法等凡テ近代建築  
法ニ據リシヲ以テ在來支那家屋ニ比シテ甚優秀ノ  
モノナリ

外觀ハ純洋式ニシテ公共建築物タルニ適合シ馬路

ノ異彩タリ

構造其他細部ニ亘リテハ工費不足ノ為ノ遺憾トスル  
所ナキニアラザルモ主要部ニハ大ナル不完全ヲ認メズ  
後オノ平家ハ現在床土間ニシテ低ク軒高亦高カラザル  
木造ナレバソノ床ニ盛土ヲナシソノ表面ニ敷瓦等ヲ施シ汚損  
ニ修繕ヲ行ヒ漸ク炊事場洗濯所・浴室廁等ニ充用  
シ得ルニ過ギサル租雑ナル仮屋ナリ故ニ病院本來ノ目的ニハ  
全ク使用スベカラス

欠点及其適否

病院ノ敷地トシテハ土地高燥ニシテ曠ク且静閑ナルヲ本  
旨トス然レトモ人家稠密ナル支那市街中ニソノ十一ノ一ヲス  
ラ有スル在來家屋ヲ求メシ難中ノ難タルヘシ  
而本建ハ多少ノ空地ヲ有スト虽ソノ不充ナルハ勿論ナ

リ且土地低クシテ雨期洪水アルニ際シテハ全敷地ニ亘リニ尺ノ  
浸水ヲナスコトアリト云フ尚乾燥期ニハ馬路及周圍ヨリノ砂  
塵夥シ且本建物ノ病院トシテ最遺憾ナル欠点トナス  
浸水ニ對シテハ之ヲ防グニ由ナシ只建物ノ床ガ地盤ヨリ四  
尺五寸ナレバ浸水ノ床面ニ及バザルヲ以テ忍バザルベカラズ  
從テ後方平家ノ如キハ高サ少クナクトモニ尺五寸以上ノ盛  
土ヲ要ス然レトモカル大洪水ハ年々之ヲ見ルニハアラズ且  
市街ノ大部ニモ及ブモノト云ヘバコノ敷地ノミノ欠点トハ去ヒ  
難シ

砂塵ハ空地ニ植樹ヲ施シ芝生ヲ設クル等ニ由リテソノ  
幾分ヲ防グラ得ベシ

建物ニ就テソノ欠点ヲ数フレバ

- 一、舞台ハソノ位置 診察室其他ニ最適應セルモノナレトモ  
床ハ大廣間ヨリ四尺高ク交通出入ニ甚ダ不便ナリ
- 二、適當ナル患者待合室ニ充ツベキモノナシ
- 三、外科手術室ニ充ツベキモノナシ
- 四、各患者並ニ職員用便所及浴室ニ充ツベキ適當ナル  
モノナシ
- 五、各科診察室トシテ現在ノ儘充用シ得ズ
- 六、給水装置ナシ

是等ハ普シキ欠点ニシテ其他ハ殆ンド現在ノモノニ小修繕  
小模様替ヲ加フルニヨリ直ニ使用シ得ベシ

舞台床ハ之ヲ切り下ゲテ大廣間床ト同高トセバ甚便ナレ  
トモ斯クテハ其床ハ勿論階上周圍出入口窓等ニ大影  
響ヲ及ボシ之ニ大模様替工事ヲ施ササルヘカラス故ニソ

ノ床ハ現在ノ儘トシ之ヲ眼科皮膚科等ノ診察室トスル  
ラ最當ヲ得タルモノトス  
手術室ハ外レノ室ヲ之ニ充用スルトスルモ適當ノ改造ヲ  
要スベク唯光線ノ最豊富ニシテ位置ノ便ナルモノアレバ  
足レリトセラルベカラズ

便所及浴室ハ多ク後才平家中ニ之ヲ設ケ特ニ二階左  
側ノ一等室用トシテソノ後才ノ廊下ニ各別ニ置便器ヲ  
オクコトセリ

其他診察室ノ割リ當テ各細部ノ模様替等ハ目下  
設計中ニ屬ス

(福州ニ於テ現状ニ照シ適當ナリト認メテ作成セル模様替  
平面図ヲ添付ス)

給水ニ關シテハ福州市民ノ最モ苦<sup>苦</sup>ハ所ニシテ水道設備

ナケレバ皆井戸水及河水ヲ使用ス

本建物ニ於テ最モ多ク使用スベキ雜用水ハ河又ハ

新設井戸ヨリ汲ミ上ゲ之ヲ濾過スルノ外ナレ然レトモ井

戸ハ雨期ニハ水面高ケレトモ平時ハ涸渴シ易ケレバ近キ

河ヨリ引用スルヲ最安全ナリトス

飲用水ハ優良ナル井戸ヲ指定シ勞力ヲ以テ運搬シ之

ヲ煮沸シテ使用セラルベカラズ

之等ノ設備亦設計中ナリ

### 施療病棟

會ノ目的貫徹ノタメ施療亦必要ナルモノ如シ而シテ中流以

上ノ市民ハ施療患者ト同席ハ勿論出入ラモ共ニスルヲ好

マザルヲ以テ施療患者ニ對シテハ出入口ヲモ特設シ病

棟診察室等ヲモ全ク別棟トシテ左側空地ニ入院患者

圖面

參

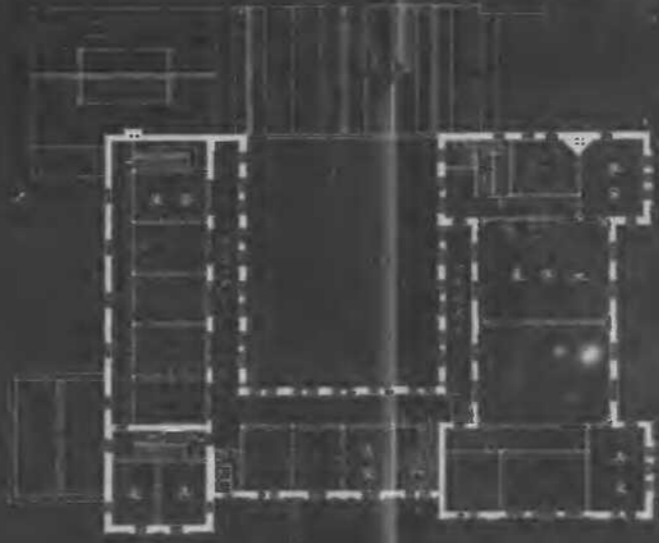
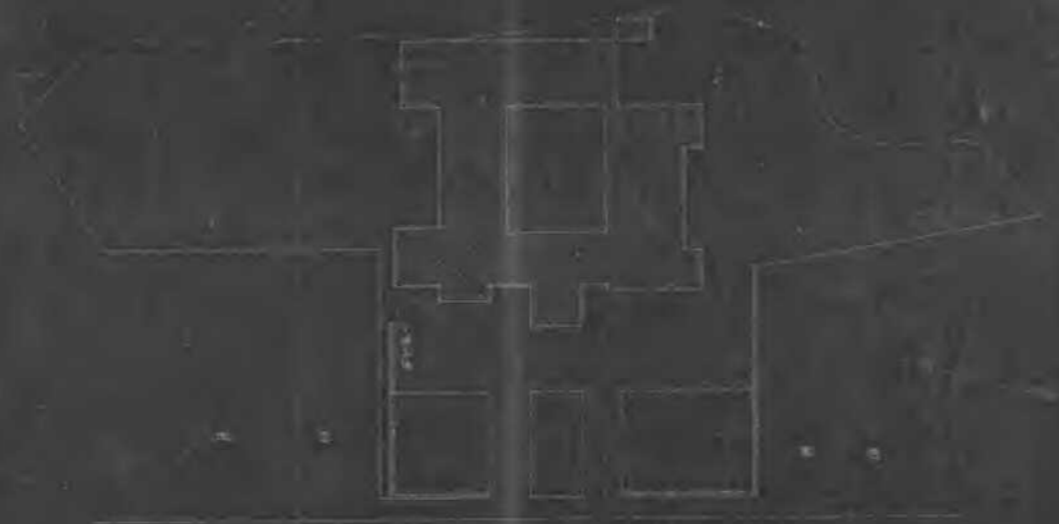
枚

在中

約二十人ヲ収容シタルモノヲ新築スルコト、セリ之又目下  
設計中ニ屬ス

福州台三山坐

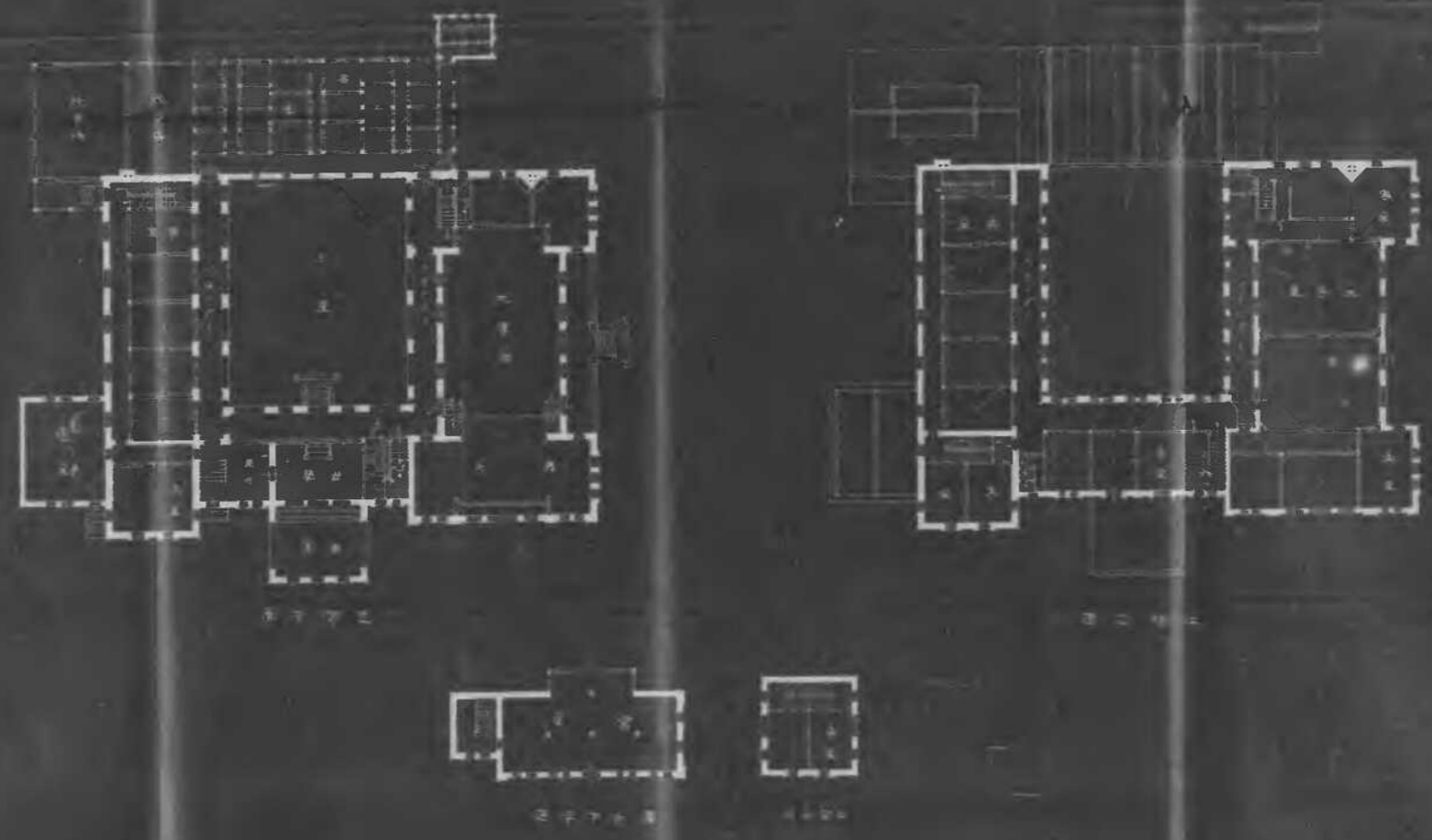
平面圖 (三百分)  
配置圖 (六百分)



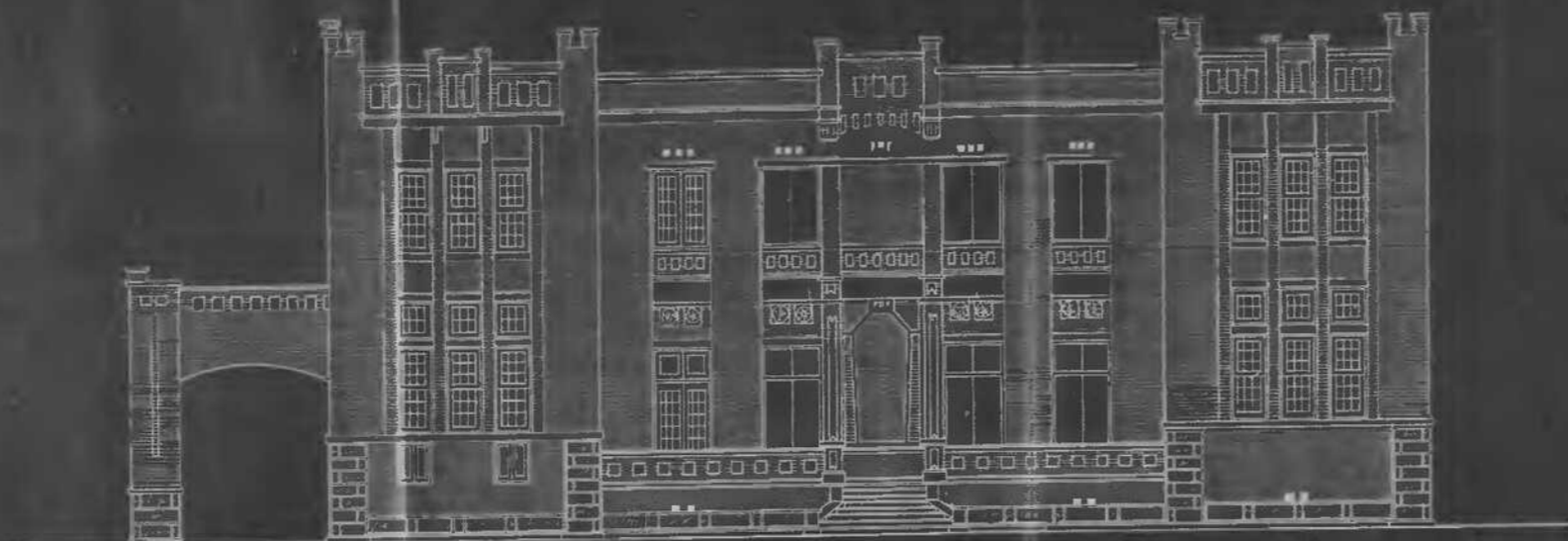
福州台三山坐  
配置圖  
六百分



四圖 (三百廿一)  
八圖 (三百廿二)



五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百



正面



側面

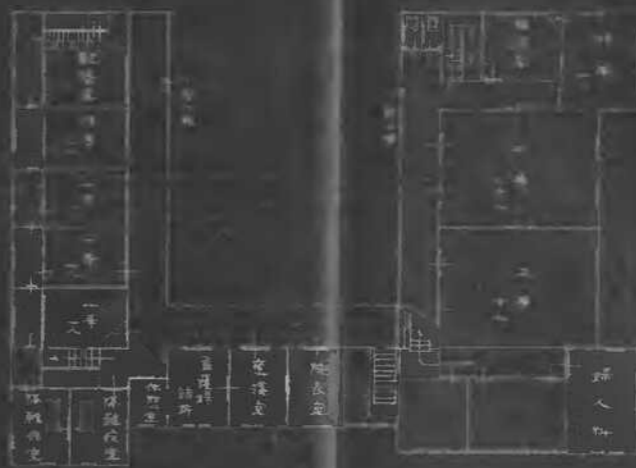
吉濱郵政局長

模樣替平面圖

縮小三百分之二



下階



上階



支那汕頭震災調査

汕頭ハ昨年南北西軍爭奪ノ集兵トナリ同年十二月南軍終ニ之ヲ占領シ秩序回復ニカノ現今ニ及ブト虽平和ハ未ダ克復スルニ至ラズ流言蜚語行ハレ時ニ暴兵ノ掠奪ヲ蒙リ起ユテ本年二月十三日震災ニ罹リ秩序風紀尚混沌トシテ未ダ常態ニ復歸セズ且災後一ヶ月余ヲ経過セルヲ以テ當時ノ實状ヲ知ルニ由ナキモノモアリテ調査上不便ヲ感ゼシモノ少カラズ

被害ノ現状現行修繕ノ方法等多ハ路上ヨリ望見シウルモノニツイテ調査シ之ニ在留邦人ヨリ聴取セル所ヲ参考シ之ヲ綜合シテ復命書トナス

汕頭

汕頭ハ南支ノ一要港ニシテ韓江ノ江口右岸ニ位シ  
 ソノ奥地ニハ潮州、潮陽、澄海、揭陽等ノ都市ト曠  
 漠タル平野ヲ有シ汽船又ハ鐵路ヲ以テ相連絡シソノ  
 將來ハ洋々タリ然レトモ惡政矢乱尋デ起リ野ハ  
 耕セラレズ天然ノ寶庫ハ放棄セラレ商業ハ益々不振  
 ニ陥リ衰頹ノ極ニ類セリ  
 汕頭ヲ通常「汕頭」ト崎碌<sup>キヤラ</sup>ノニ區ニ願テソノ對岸  
 ニ角石トテ恰モ鼓浪嶼ノ廈門ニ於テルカ如キ一區アリ  
 調査ハ是等三區ニ亘リ之ヲ行フ

汕頭 商業區

崎碌 各國領事館、學校、及住宅所在區  
 角石 住宅區

汕頭ニ於ケル建築ニ就テ

地盤

地盤ヲ構成セル土砂ノ主性分ハ風化花崗岩ナリ地質  
 ハ軟硬一様ナラス散漫ナル砂地アリ又凝結セル粘土地  
 アリト虽モ一定ノ深サニ達スレバ湿润ニシテ土質均齊  
 ナレバ建築敷地トシテハ好適地ニハアラザルモ適當ノ深  
 サニ適當ノ地敷ヲ施サバソノ安全地耐力ハ一平方尺一噸  
 乃至一噸半ヲ降ラザルベシ

建築材料及用法

一 漆喰土 容量ニ於テ粘土四燭灰一ヲ規範調  
 合トス地敷家屋ノ壁体及墻壁等ニ最モ多ク用ヒラル  
 、モノニシテ粘土ハニ分目内外ノ節ニカケ之ニ燭灰ヲ  
 混シ適量ノ水ヲ注ギテ練リ返シ台灣ニ於ケル竹相詰土

塊造ト称スル才法ニヨリ用井ラル、即高ニ尺内外ニ  
堰板ヲ飼ヒ漆喰土ノ厚サニ三寸毎ニ鉄製ノ脊ヲ有スル  
重量約一貫目ノ真棒ヲ以テ突キ固ムルナリ、然レトモ  
一壁体ヲ構築スルニ特ニ足代ヲ設ケズ壁体ノ立ケ昇  
リハ隅若クハ一端ニ定規柱ヲ建テ、之ヲ遺形トスト去フ  
斯リシテ壁体ハ日ト共ニ漸次硬化シ調合宜シキヲ得  
且充分突キ固メタルモノハ四週間内外ヲ経過スレバ釘  
ヲ用フル能ハザルニ至ルト去フ(寫真カ一冊参照、丸太  
ハ堰板押ヘナリ)

ニ、煉瓦 品質劣等ニシテ形状大小不同潮洲、  
潮陽等ヨリ之ヲ産出ス之ヲ積ムニ石灰ハ粘土モルタム  
又ハ單ニ粘土モルタルヲ以テス、然レトモソノ需用甚少  
ク煉瓦造建築物ト称シウルモノハ實ニ稀ニシテ多

クハ迫持ヲ有スルベランダ― 墻壁ノ柱取及倉庫ノ主要部  
等ニ之ヲ用フルニ過ギズ

三、石材 花崗岩豊富ナレトモ街路ノ敷石段石等  
ニ用フルモノ、外稀ニ窓及出入口廻リ等ニ用ヒタルヲ見ルノミ  
ニシテ一般建築材料トシテ多ク用ヒラレズ  
四、木材 丸太材最モ多ク用ヒラレソノ材質ハ潮洲  
奥地等ヨリ産スル福州松ニ類スル松材、松材ニシテ角  
材ハ一部新嘉坡ヨリ輸入スレトモ歪ニ易ク比較的  
高價ナリ

松材ハソノ蟻害程度他ノ木材ニ比シテ少キ事福州松  
ニ似タリ其他屋根瓦及敷瓦等台灣ニ於テ本島人  
家屋ニ多ク見ルモノト大同小異特ニ峯ゲテ去フベキモノナシ  
建築構造一斑

構造ニ關シテハ主トシテ漆喰土造家屋ニ就テハントス  
地 形 杭打地取ハ地質ノ最軟弱ナル區域ニ於テハ之ヲ  
施ス事アリト虽一般家屋ノ地取ハ深サ約四尺ノ根切リヲ  
ナシ地底ヲ平均スルニ留メ直ニ地取土塊ヲ築クモノナリ  
斯リテコノ地取ハ数週間放置シテ充分硬化セシムルヲ  
常トス

(寫真ヲニ圖及圖面 ① 参照)

壁体壁体ノ構築法ハ已述ノ如シ而シテ之ヲ築クニ當  
リ相交ハル兩壁体ハ堰板ノ構造ノ復雜トナルヲ除ケテ決  
シテ同時ニ築カズ恰モ木箱ヲ最簡單ニ釘ヲ以テ作  
ルト同法ニ由ル從テ相交ハルニ壁間ノ結合ニハ特別ノ  
才法ヲ以テス

(一) 甲壁(最初ニ築キ上ゲン壁体)ニ乙壁(築カントスル壁体)

ト、接合部ニ治テ巾二吋深サニ分ノ一吋内外ノ豎溝ヲ穿  
テオキ乙壁ヲ築クニ當リ自ラソノ接合部ニ目達ヲ生ゼシ

ムル法(寫真ヲ三圖及圖面 ② 参照)

(二) 直徑八吋<sup>大</sup>内外ノ鐵輪ニ何ヲ輪達ニ作リ之ヲ高三

尺間内外ニ埋メ込ム法(圖面 ③ 参照)

(三) 各一吋<sup>大</sup>ホルトヲ以テ兩壁ノ接合部又ハ相對壁  
ヲ緊結スル法(寫真ヲ九<sup>大</sup>及一五圖及圖面 ④ 并ニ

⑤ 参照)

壁体自身ノ補強法トシテハ割竹ヲ高ニ尺間内外ニ壁  
中ニ埋メ渡ス法行ハル窓出入口等壁体ノ有スル開孔  
ハソノ枠ヲ取付ケオキテ壁体ト同時ニ之ヲ作ル

床梁、小屋等、梁、根太、母屋等ハ多クハ直ニ壁中ニ

押入シ之ヲ受クルニ受石又ハ桁・受木等ヲ有スルモノハ稀ナ  
リ從テ是等梁・根太・母屋等ト壁体トハノ連絡結合甚  
ダ貧弱ニシテ地震ニ對シテハ最モ危儉ナル状態ニアルモ  
ノナリ況ンマ壁体中ニ押入セル木部ノ蟻害ヲ蒙レンモノ  
多キヲ見ルニ於テオヤ

### 被害ノ現状

#### 三區ノ被害比較

被害ノ現状ヲ通觀スルニシテ最慘状ヲ呈スルハ崎碌  
ニシテ汕頭之ニ亞ギ角石最少シ崎碌ノ被害ノ大ナリシ  
ハ地盤他ニハシテ軟弱ナル如ク多クハベランダ一ヲ有  
スル獨立家屋ニシテ材料拙工共粗悪ナルモノ多シ  
最等ノ結果一局部ノ大破ガ全家ノ大破ヲ誘出シタル  
等ニ因ルモノト認メラル

角石ニテハ地質ノ稍良好ナルヲ認ムル外崎碌ニ於テハ  
家屋ニハシヨリ有効ナル條件ニアル家屋ヲ見ズ且コノ  
區域ハ山ヲ負フモノニシテ多クハベランダ一ヲ有シ震度ノ  
大ナルベキ山腹ニ建テル家屋等多クレドモソノ被害ノ最  
モ少キハ震度ノ微弱ナリシタノニハアラザルカ汕頭ノ被  
害ノ比較的小カリシハ櫛ハセル家屋ノ相持ニ支ヘタルト  
木材ヲ多ク使用セルト且ツ構造材料拙工等比較  
的多クノ注意ノ拂ハレタルモノ多キニ因ルモノナルベシ

### 各種建物ノ被害及地割

#### 一 地表ノ裂開

傳フル所ニ由レバ潮州附近ニ於テハ道路ノ陥落長堤  
ノ決壊地表ノ大裂開等地震ノ被害アリシト云フ然レ  
トモ汕頭市内ニ於テハ崎碌及角石ノ一部ニ數ヶ處ノ



小裂開ヲ見タルノミ(寫真オ一参照)

ニ、 牆壁類

構築法漆喰土造ノモノハ建築材料ノ頁ニ於テ已述セルオ法ニ由ルト雖牆壁ニアリテハ其全長ヲ同時ニ築クモアラズ<sup>ズ</sup>テ樞板ノ長サニヨリニ間又ハニ間半毎ニオヨリ部宛順次築造スルモノナレバ長牆壁ガ殆ンド獨立セル單體壁ノ一列タルニ止マルノミナラス交叉壁又ハ控壁アルモノト雖モ相互ニ充分ノ結合ナケレバソノ位置ニヨリテハ長壁ト選ブ所ナキナリ

龜裂

長牆壁ノ垂直ノ龜裂ハソノ築造法已述ノ如キモノナレバ輕微ナル震動ニ遇ヒテモ之ヲ生ズベシ即地震ニヨリテソノ弱矣ヲ最明瞭ナラシメタルモノナリ

又交叉壁相互ノ接直着部及柱狀トノ接合部ニモ垂直ニ大小ノ龜裂ヲ見ル

斜行龜裂ハ輕微ニシテソノ例亦少シ

轉覆

(寫真オ四)ノ牆壁ハ東西ニ走リ特別ノ地狀ヲ有セズシテ乾燥セル砂地ニ深五六寸ニシテ立テリ故ニ地震ニ遇ヒテ長壁ハ直ニ個々ノ單體壁ト化シ左右ノ連絡ハ失ハレ轉覆シタルモノニテ切斷ト見做スベキモノニアラス轉覆ヲ免レタル部分ハ一端ニ直角ノ交叉牆壁ヲ有ス轉覆ノ方向ハ北オナリコノ牆壁ト直角ナル牆壁ノ控壁ノ一モ北オニ轉覆セルヲ見タリ其壁體トノ接合部ニハ殆破壊ノ痕跡ヲ認メザル程不完全ナル接合ヲナシ居ルモノナリ

倒壊

地形ヲ有スルカ又ハ硬キ地中ニ深ク立テル牆壁ガ基部ニ  
近ク剪断轉覆セルモノ(寫真ヲ五参照)アリ  
比較的長カラザル牆壁ニモ長キ牆壁ノ一部ニ之ヲ見ル又  
ソノ左右ニ一部ヲ殘シ擲形ノ破壊ヲナシタルモノアリ是等  
ノ牆壁ノ方向ハ多ク東西ニシテ又南北ニ近キモノモアリ然  
レドモ牆壁ノ轉覆倒壞ハ被害中寧ろ少キ例ナリ  
以上ハ主トシテ漆喰土造ノ牆壁ノ被害ナリ 煉瓦頭  
ハシ積ノ牆壁ハ之ヲ見ズ然レドモ柱形ヲ有スルモノ、柱形ノミ  
又ハ全部其他被害ノ少キモノ、中ニハ煉瓦造漆喰塗ノ  
モノモアラン

三、家屋壁体

漆喰土造

隅角部ノ垂直、龜裂(寫真ヲ八、九、一〇参照)ハ最

多キ倒例ナリ

即チ地震ノ方向ニ直角ニ近キ外側壁ハ地震ニヨリテ  
交叉壁ノ接合失ハレ外オニ張出シタルモノナルベク種ノ被  
害ヲ蒙ラザル漆喰土造家屋ハ柱ノテ稀ナリ寫真ヲ三、四  
九、一〇等ニ見ルガ如キ街路上ニ横架セル木材又ハ地上ヨ  
リセル支柱ハソノ隅角部ニハ龜裂ヲ見ザルモノト虽向  
仕切壁トノ接合部ニ於テ大小ノ龜裂ヲ生ジ倒壞ノ  
危険ナル状態ニアルヲ示スモノナリ

日本領事館(崎碌)ノ如キハ附近ノ家屋中最被害  
少キモノ、一ニシテ外觀細リセバ殆ソド震災ノ跡ヲ認メズ  
然レドモ一度屋内ニ入りテ之ヲ檢スレバ壁体ノ各隅部  
ニハ龜裂ヲ生ジ甚ダシキハ二寸以上モ裂開シ從ツテ天井  
廻等ハ凡テ小龜裂ヲ見ルソノ外觀ヨリセバ何等ノ被害

ヲ認メザル如キモノスラ此ノ如キ状態ナレバ大亀裂ノ外側壁ニ認メ得ルモノ、家内ノ如何ニ危険状態ニアルカハ推シテ知ルベキノミ

### 直角壁ノ倒壊

以上ノ如ク一度ソノ接合部ノ分離シタルモノニシテ地震ノ方向ニ直角ナル壁体ハソノ基部ヨリ剪断セラレベク墻壁ノ單体トシテノ剪断ヨリモノ高サノ高キ丈一層容易ナリ況ヤニ階建家屋ニシテソノ階床ガ壁体ノ破壊ヲ助成スル如キ構造ナルニ於テオヤコノ被害ハ墻壁ノ倒壊セルモノニ比シテ遙ニ多シ寫真オニオハオニ参照倒壊ノ方向ハ多ク北オナリ

寫真一六ハ直角壁ノ左右両端ノ結着ニ比シテ壁体自身ガ窓出入口等ノ開孔多クソノ強度微弱ナリシトソ

### 別種ノ倒壊ヲ示セルヲ示ス

之ノ破壊ハ長キ煉瓦造家屋ガソノ方向地震ノ方向ニ直角ナルトキ多ク見ル例ニシテ汕頭ニ於テハ寧ろ少ナキ例トス即チコノ種ノ破壊ヲ起スニ先ンジテ壁体ノ両端即隅角部ノ接合分離セルモノ多クオハ震度ノ劇甚ナラザリシト因ルモノナラン

平行壁ノ垂直ノ剪断ヲモ見ル(寫真オニ第九参照)亦少キ例トス又寫真オニノ如キ前面ベランダ一及前面壁体ノ倒壊ヨリ隅木及小屋材各部ノ平衡失ハレ引イテ側壁ニ大破壊ヲ起シタルモノアリ  
コノ外々壁ノ亀裂ヲ生ズル程度ニ止マリ倒壊スルニ至ラザルベカリシモノモヤコノ亀裂分離ハ天井、床、小屋、等ノ各材ニ移動又ハ変形ヲ生ゼシノ遂ニ壁体ノ破壊ヲ誘出セシモ

ノモ多カラシ

窓出入口等開孔ノ角ヨリ生ゼル斜行亀裂ハ屋内ニ最  
多ク之ヲ見ル

然レドモ大地震ニ際シモルタルノ粗悪ナリシ為ノニ開孔少  
キ平行煉瓦壁ニモ生ズルコトアル如キ斜行ノ大亀裂ハ之  
ヲ見ズ之亦震度ノ比較的小ナリント又カハ破壊ニ先テ他ノ  
破壊ヲ生ジタルモノニ因ルナランカ

### 煉瓦造及煉瓦混用造

煉瓦造家屋ハソノ例稀ナリ眞真チ四ハ脆弱ナル地盤  
上ニ建テ煉瓦積ハ石灰入粘土モルタルヤレトモ更ニ被害  
ヲ認ノズ只煙突ノ頭部ノ墜落セルヲ見ル然レトモソノ  
破壊面ヲ見ルニ新シキ破壊面ハ殆ンド認ノズンテ煤  
ニ塗レオルヲ見レバコノ頭部ハ折斷セルラレタルニアラス寧

移動墜落セルモノトスルヲ至當トス

埠頭附近ニ煉瓦柱ヲ漆喰土造壁ノ要部隅角部  
腰桁廻リ小屋梁下柱桁等ニ用ヒタル大ナル倉庫数戸  
アリ 之等ニ就テ檢スルニ窓出入口廻リニ石材ヲ用ヒタル  
モノ周囲及柱桁煉瓦積ト漆喰土造壁トノ接ギ目等ニ  
小亀裂ヲ生ジタル根瓦ノ多少剥落移動シタルヲ見ルノミ  
ニテ大ナル被害ヲ認ノズ尚地震ニ最モ弱キ両端ノ切  
妻壁等ニモ被害ナシ

但シ等ノ倉庫ハ南北ニ長キモノトス  
コレ等ノ外ニ單ニ小屋梁ヲ受クル煉瓦柱建四才吹  
放シノ建物及ベランダ一ヲ煉瓦化粧積トシタルモノ等  
アレトモ被害ヲ認メガルモノ多ク被害ヲ認ムルモノモ極  
メテ輕微ナリ

ベランダ

迫持式摺式共煉瓦積漆喰化粧ノモノ多シ汕頭ニ於テ最惨状ヲ呈スル大被害ハベランダニアリ寫真参照是等ノ本家ハ多ク漆喰土造トス

煉瓦積ハ施テ法租悪ニシテモルタルハ石灰少キ粘土モルタルナリ本家トノ取合ヒハ内薄キ柱取ヲ本家壁ニ沿ウテ設クルノミノ屋根ハ本家トノ間ニ梁ヲ壁中ニ押入シテ架シタル陸屋根トス一般煉瓦造、アーケナドハ地震ニ弱キモノナルニシテ築造ノ粗悪ニ加フルニ地震ニ際シテ震動移動ノ自由ナルベキ構造ノ梁ヲ以テスルニ因リソノ破壊ノ最モ容易ナリシハ當然トス

即コノ種ベランダノ破壊ノ最大ニ且ツ最モ多キ例ハ寫真オハノ如キ本家トノ取合上部ノ斜行亀裂

及寫真オ五オ六ノ如ク迫持ノ中央又ハ軒蛇腹ノ垂直亀裂又ハ破壊ニシテ是等ノ破壊ヨリ鬼イテ家屋ノ一部又ハ全部ノ倒壊ヲ起セルモノアリ  
其他屋根ノ墜落セルモノ軒及軒上ノパラヘットノ破壊セルモノ等多シソノ破壊状態皆大同小異ナリ  
寫真オ四ノ家屋ノ如キ煉瓦造建物ノベランダ又ハ頭ハシ煉瓦積ミノモノアレドモ被害ヲ認メズ

木材混用造

小屋床材ハ瓦ヲノ家屋ニ之ヲ使用ス然レトモ此ニ木材混用家屋ト称スルハ側壁及後面壁等ヲ漆喰土造トシ家屋前面床小屋等木材ヲ以テ構造セルモノヲ意味ス  
コノ種ノ家屋ハ汕頭ニ多クソノ被害ハ一般ニ大ナラス御以セル家屋ノ中ソノ最端ニ位スルモノ、側壁及寫真オ一三

因ノ如キ構造家屋ノ前面壁ノ大破セルモノアリ其他漆喰土造家屋被害ノ各種ハ亦之等ニモ認ナラント雖モソノ程度甚シカラズ

### 鉄筋 コンクリート造

コノ家屋ハ一洋人ノ所有ニシテ尚竣功ニ至ラズ而ソノ構造ハ普通鉄筋コンクリート造ト称スベキモノニアラズンテ中空ノ人造石ブロックヲ鉄線敷本ヲ以テ貫通シセソントモルタルヲ以テ充填シタルモノナリ且ツ各部ノ寸法纖細ニシテ一見木造家屋ノ如キ外觀ヲ有シ汕頭ニ於テハ唯一ノ例ニシテ少シノ被害ヲ認メズ

### 現行修繕方法

外壁ノ亀裂分離セルモノハ壁体接合部ノ補強法トシテ行ハレタルモノ即鉄棒ヲ以テ結束スル法行ハル

(寫真オ六オ一四)コノ方法ハ漆喰土造壁ノ修繕法トシテハ或程度迄ハ有効ノモノナラン即寫真オ九因家屋ノ如ク新築當時コノ補強法ヲ施シタルハソノ有効ナリシヲ実證スルニ由ル

窓出入口等ノ角ドリ斜ニ生ジタル大ナル亀裂ニハ因面⑥ノ如ク乙形ノ鉄棒ヲ嵌ン漆喰土ヲ以テ補修ス

外壁ノ一部倒壊セルモノ等ハ古煉瓦又ハ漆喰土塊ヲ粘土モルタルヲ以テ何等特種ノ考慮ヲ用ヒズシテ積ミオルヲモ目撃セリ

調査當時ハ災後一ヶ月余ヲ經過セルヲ以テ時ニ小震ヲ感ズレドモ地震ニ對スル不安ハ除去サレタルモノノ如キモ物價暴騰ノタメ修繕工率ニ着手セザルモノナラン

### 結論

被害ハ甚大ナリ

生命財産ニ及ボシタル被害ハ正確ナル数ヲ知ルニ由ナキモ  
死傷者千数百名内死者四百名トハ稍信ズベキモノ、如シ  
家屋被害ノ程度ヨリスルモ其直接間接ニ蒙リシ打撃  
損害ハ甚大ナルモアラシ

震度ハ予想シ得ル最強ノモノニアラス

煉瓦造家屋木造ヲ多ク混用セル家屋等ノ被害ノ少  
ナカリシト其他漆喰土造家屋及牆壁ト雖必ズシモ倒壊  
大亀裂等ヲ起シタルモノ、ミニアラザル事而シテノ構造法  
材料、施工法等完全ナルモノ殆ンドオキ事等ニ徴スルニシ  
ノ被害ハ全体トシテ多大ナリシモ震度ハ吾人ノ予想シ得ル  
モノ、中最強ノモノトハ去ヒ難シ

被害ノ大ナリシ理由

材料ノ脆弱構造ノ非耐震的ナルニ係ラスニ階建家  
屋ノ多キ事、施工ノ粗悪等ハ家屋ニ大被害ヲ起シタ  
ル最大原因ナリ即漆喰土造壁ノ煉瓦壁等ニ以  
シテ脆弱ナルハ勿論ナレトモ漆喰土調合ノ如キ一、四、ト  
称スルモ実施ニ當リテハ多クノ場合、大、甚ダシキハ一、  
一〇、ノ如キヲ用フル事アリ平均実施調合一、七、ナラント去  
又、燻灰ノ如キモ一定ノ工場アリテ製出スルニアラス多ク  
ハ現場ニテ貝殻ヨリ作成スルモノナレバ充分ノ還元ハ期  
シ難シ且ツ施工ニ當リテハ煉瓦壁漆喰土壁共足代  
ヲ設ケズ(寫真カ一カ一四参照)從テ材料ノ運搬工事  
中ノ震動等ハ新築壁ニ悪果ヲ與ヘバク其他種々ノ不  
正行ハ非耐震的家屋ヲシテ益悲境ニ陥ラシメタルナリ  
且市街ハ道路ノ幅員狹隘ニシテ且公園廣場等ノ如

キ避難所ナク地震ニ全ク経験ナカリシ市民ハ極度ノ驚愕ヲ以テ右往左往シタルベクソノ群衆ノ頭上ニ脆弱ニシテ重量大ナル壁体又ハ木材等ノ破碎墜落シタルトキ生ズベキ惨状ハ想像スルニ余リアリ斯クテ多クノ人命ハ損セラレタルナリ 例ヘバ崎碌ノ聯興里(馬真カセ)ノ如キ又汕頭ノ永和街ノ一部ニ於テ一時ニ九人壓殺サレタル如キ是等ハ最著シキモノナリト雖亦予想セラレベキ惨状ナラザルニアラス家屋ノ崩壊ニヨリ人命ヲ損シタルハ懷安街茶園ノ死傷者数百人ヲ出セルヲカトシ其例モ亦少カラザルモノ一敏ニ屋内ニ止マリシモノハ安全ニシテ屋外ニ出デシ者ニ被難者多カリシト云フ斯ノ如ク家屋ハ全ク耐震的考慮ヲ甲ニズ市街ノ現状亦甚ダ戦慄スベキモノアルニ係ラズ災後一ヶ月ニシテ早くモ當時ノ惨状ヲ忘レントシ不完全

ナル修繕ヲ施シテ之ニ安ジ甚ダシキハ「若シ次ノ震災アラバ百年ノ後々ニシテ吾等ノ關スル所ニアラスト知シテ平然タルモノアリト云フニ至リテハ啞然タルガレヲ得ガレナリ

終  
り





第一図 (碕碌)

工事ノ中途ニ災害ヲ被リシモノ  
ニシテ南北ノ西壁殊ニ北側壁

(△)ハ全壊ス

X 地表ノ裂開

最前オニベランダ一ノ一部ヲ

表ハセル末竣工家屋ハ鉄筋

コンクリートト称スルモノニテ被

害ヲ認メズ



第貳回（崎）

完成セル基礎工事  
 ニンテ築造後硬化セ  
 シタルノ放置ノ途中ニ  
 震災起リタリシモノニテ  
 地底ノ一部ニ亀裂アリ  
 左才ノ家屋ハペランダ  
 リ（南面）ノ迫持倒壊セ



第三図(崎碌廣州街)  
 海岸ニ近キ新開住宅區ニ  
 ニ邦人俱樂部等ノ所  
 在地ナリ  
 X. 接合部ノ目違ヲ示ス  
 △直角壁ガ剪断倒  
 壞セル残壁(南側壁)  
 □横木ハ相互ニ側壁ヲ  
 支ヘオル状態



第四図(崎碌スタルガード石油

会社宿舎)

△墜落セル煙突頭部

○牆壁轉覆セルモノ(方向北才)

家屋ノ右ヨリニ番目階下ノ窓ノ

迫持ニアル亀裂ハ地震ニヨルモノ

ニアラス



第五図(崎祿潮海關監督署)  
 × 塙壁ノ倒壊セルモノ  
 △ アーチ中央ノ亀裂及破  
 壊及ハラヘット一部墜落  
 ○ 本家トノ取合ヒ上部ノ斜  
 行亀裂  
 家屋ハ凡テ漆喰土造前  
 面ベランダールハ煉瓦造ニシ  
 テ南面ス  
 中央家屋ハ側壁ノ破壊  
 ニ因リ屋根墜落セリ



第六図(米國領事館)  
 今鉄棒ヲ以テ前面壁張出  
 シヲ引キ付ケタルモノ災後ノ百状態  
 アーチ中央部ニ亀裂及破壊  
 アリベランダール右端ハ甚シク  
 危険状態ニアリシヲ後ニ除  
 去シタルモノナリ

第七回 (米國領事館)

ベランダ一屋根ハ大半墜落セリ  
(災害當時ノ寫真前頁ノ寫  
真参照)



第八回 (崎路聯和里東巷)



家屋ハ南面ナリ  
△軒上扶欄墜落シ本家  
トノ取合ヒニ部及前面下  
部ニ斜行大亀裂ヲ生ズ  
ベランダ一ノ端(前オノモ  
ノハ左端近キモ右端)倒壊ス  
×大壁塊ノ墜落ニヨリ亀  
裂ヲ生ゼシモノ横亀裂ハ  
堰板一既ノ高ガヲ示ス  
个直角壁垂直ノ大  
亀裂

第九回 廣州街

○新築當時鉄棒ヲ以テ壁体ヲ  
結束セリ之ノニテ屋内ヲ見ルモ被  
害程度少シトシ東漸學校長村  
岡氏宿舎)

△幸直ノ大亀裂(平行壁)窓側  
ニ沿ッテ妻ノ全高ニ達ス



第一。隅汕頭永安街  
メ前面壁ノ亀裂  
横架丸太ハ各家屋壁体ノ  
危険状態ニアルヲ示ス  
(街路ハ約東西ニ通ズ)





第一一四崎碌ノ一部  
 側壁(北面)ノ交叉壁ト分離  
 剪断倒壊セルモノ屋上ノ構  
 ノ如キハ竹造リナリ

第一二四(崎碌)  
 右端ノベランダ―全壊  
 前面壁倒壊シ隅木ノ墜  
 落ニヨリ側壁ヲモ破壊セ  
 ルモノナリ





第一三回(碓氷新興街)長家東面ス  
境界壁と前面煉瓦壁接合部ハ全部龜裂ヲ生ジ

煉瓦壁亦斜行龜裂ヲ生ス

コノ長屋ノ最端ハ前面壁及側壁倒壊セリ

(前面煉瓦壁ハ木材桁上ニ構築セルモノナリ)





第一五圖  
 災害當時ノ佛國領事館  
 △壁体補強鉄ボルトヲ有ス  
 此附近ニ於テ被害ノ最大ナルモ  
 ノナリ

第十四圖 (崎碌)  
 修繕中ノ佛國領事館  
 △補強鉄棒ヲ挿入セルヲ  
 示ス



第六回 崎碌潮海關帶水負住宅  
 南面壁ノ大倒壊ヲナセルモノ窓廻  
 リノ煉瓦迫持ヲ残シテ破壊セリ



第一七回 崎碌聯興里  
 街巷ハ南北ニ通 スルモノナレト  
 モ前面壁ノ破壊甚シク殆全  
 部雨使用ニ堪エザル程度  
 被害ナリコノ一巷ニテ即死者  
 三十名ヲ出セリト云フ





第一九四 崎碌邦人旅館

向ツテ左端ハ軒先墜落セリ窓廻リ壁付大破セリ

家屋ハ南面ニ後壁ハ大  
亀裂ヲ生ジ支柱数本  
ヲ以テ支フ



第八四 崎碌坤關女子學校宿舎  
 牆壁ハ垂直ニ寸断セシレベランダ  
 両端倒壊セリベランダハ東面ス  
 壁ノ分離

第二。因埠頭附近審判廳  
家屋ハ南面ス

ベランダ一ノ部、倒壊セルモノ  
ニテ其屋根ハ全部墜落セ  
災害當時ノ寫真ナリ



第二一因 汕頭懷安街

戲園大破壊

時恰舊正月ニ際シ多数ノ觀  
劇者アリシ為メ多クノ死傷者  
ヲ出セリ

原構造ハ不明ナルモ柱少キ梁間  
大ナル床ニ多数ノ觀客ヲ有セル  
ヲメ床ノ落シ荷重大トナリコノ大  
破壊ヲ起センモノナランカ





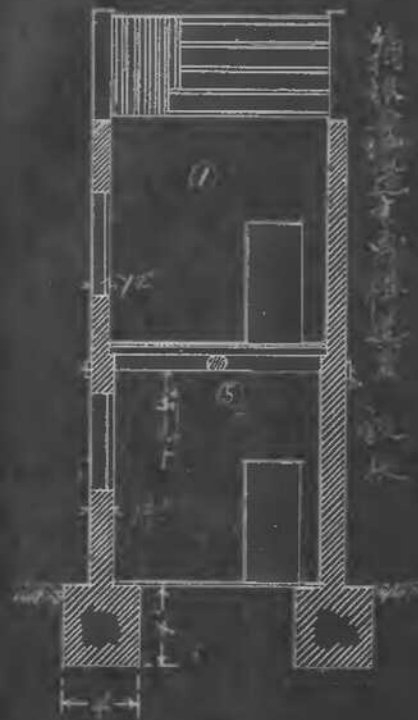
第二回 崎東瀨學校復

校舎

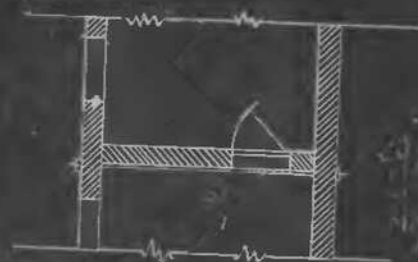
骨瓦太シテ屋根倒共全部台  
灣ニ於テ舳舫ノ苦等ニ用フル  
アンペラヲ以テシ床ハ粘土叩キナリ  
ニ教室及一事務室ヲ有ス  
借屋料六ヶ月ニ百弗ニシテ期  
間後ハ材料全部ヲ貸主ニ返  
附スルモト云フ。復屋トシテハ巧妙ナ  
ルモト認ム

第二三因 汕頭存心善堂  
 普通念佛社ト称シ慈善團  
 組織經營セルモノニテ災害當  
 時貧民ノ收容供与其他引取人不  
 明ノ即死者埋葬負傷者ノ手  
 當等最活動セルモノナリト云フ  
 寫真ハ當時ノ敬言備落友人夫市  
 民ノ象合ヲ撮レルモノナリ  
 建物ニハ被害ナシ

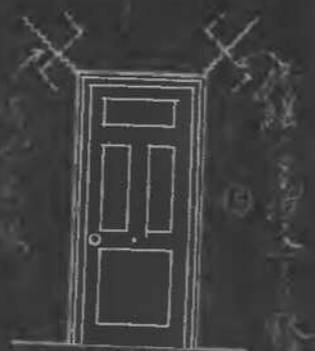




柱と窓の断面



柱と窓の断面



扉の断面

廣東ニ於テ病院ニ充スベキ建物調査

廣東博愛會(厦門)ニ於テ病院ヲ經營セル如キ日支合辦ノ財團法人(ガ病院)ニ充用スベキ建物ニ就テ攻究セルモノハ教戸アリテソノ中最モ然ルベシト認メタルモノニシテ今コノニ建物ニ就テ調査スル所左ノ如シ

其 一

舊大信銀行建物

省城外ニアリ市街ノ約中央ニ位ス敷地ハ狹隘ニシテ建物ノ建坪ハ大ナリト雖無定見ニ増築シタルモノニテソノ配置復雜ヲ極メ建物亦腐朽セルモノ少カラズ 只適當ト認ラルモノハ最前才ノ洋風建物一棟ナリ而ソノ位置ハ市街ノ中央ニ近ケレドモ何レヨリスルモ狹隘ナル街路ニ由ラザルベカラズ故ニ廣東ニ於テ最殷賑ヲ極メ珠江ニ沿フテ市街ノ南ニ一直線



ニ走り各地ヨリ、船舶、棧橋及上陸場ヲ有スル唯一ノ大通リナル長堤ヨリスルモ、紆餘曲折シテ甚ダ不便ナリ。是ト街路ヲ隔テ、一屋アリ、施療病棟ニ充ツベント雖、光線最不充分ニシテ、日中尚燈火ヲ要スルモノナリ。

其二

### 舊警察署建物

位置ハ市街ノ東南ニ位シ、長堤ヨリハ巾十間以上ノ大道路本建物ノ前面ニテ丁字形ヲナシ、長堤ニ出ヅルニ便ナル區域（又ハ江南珠江ノ南岸ノ區域）其他船ヲ利用シウル地オヨリハ車馬船舶ノ便ニヨリテ直ニ本建物ニ達シ得ベシ。本建物ハ鉄柵及塙壁ニ圍マレタル前庭ヲ以テ道路ニ面シ、最オノ本家ハ白堊塗煉瓦造ノ洋式ニ階建ナリ、ソノベランダヨリハ長堤ヲ超ヘテ珠江及江南ノ一部ヲ瞰下スベシ。

後オ建物ハ壁体ノ主要部ヲ煉瓦壁トセル純支那凡ノ木造家屋ニシテ敷地ハ狹隘ナリ採光ハ中庭及空地ヨリ之ヲ行フ。建物坪数ハ前者ノ夫レニ比シテ小ナルモノ、如シ

### 兩者ノ比較

博愛會ニテハ當初前者ヲ候補建物ノ第一ニ措キ後者ハ第二トセリ故ニ先ツ第一候補建物ニ就テ實地調査ヲナシ續イテ第二候補建物ニ就テ調査セリ。而大体ニ亘リ兩者ヲ比較スルニ

### 舊大信銀行建物

敷地狹隘光線少ク配置復雜ナリ

模様替ノ程度大ナリ  
交通最不便ニシテ輻ニ由

### 舊警察署建物

敷地狹隘光線比較的多ク配置ハ簡單ナリ

程度稍小ナリ  
交通最便ニシテ車船ヲモ利用

ルノミ  
建物坪数ハ大ナリ

シ得所謂目按ノ位置ニアリ  
稍小ナリ

調査第一日ニ於テ西者ヲ比較攻究シテ後者ヲ候補建物ニ選定シ各部詳細ニ亘リ実測ヲナス尚後者ノ右隣ハ南園トテ大茶園ニシテ夜間ハ喧騒ヲ起ス事アランモ樹木多ク敷地比較的廣クシテ市街地ノ隣家トシテハ寧幸ナルモノナランカ敷地界ニハ高キ煉瓦壁アリ左隣ニハソノ巾八間許長サ本建物敷地ノ全長ノ空地アリ堀放シノ古溝アリト雖之ガ整理ハ簡單ナリ尚之ヲ借入レテ敷地ノ一部トセバ一層妙ナリ

建物実測面積及構造大様

総延坪数 約八百三十坪七四(直坪)

内煉瓦造ニ階建(符号イ)

八〇.七二

壁一部煉瓦造木造ニ階建(符号ロニロ三ハ三及渡廊下

ベランダ一等共

ニ七三.〇〇

煉瓦混用及純木造平家(符号ホハト)

一三三.三〇

各建物ノ構造其他

本建物ハ當初ハ何ノ目的ニ建築セラレタルカハ不明ナルモノノ配置ハ公共建物ノ性質ヲ有シソノ構造大様左ノ如シ

符号①

階下床ハ玄関石敷其他ハ敷瓦敷壁漆喰塗天井根太頭ハソノ間仕切ニケ所木製ノ外全部煉瓦造左側

一室ハ直接外界ヨリノ光線ヲ得ルニ由ナシ  
階上・床ハ上等品敷瓦敷  
ベランダア一手指付壁天  
井共漆喰塗向仕切ハ木製ニシテ煉瓦造暖爐ア  
リ凡テ純洋式ナリ

本建物ハ殆ンド修繕ヲ要セザル者ニテ最優良ナルモノナリ  
符号 ㊦ノ一及 ㊦ノ二

階上階下共大同小異床ハ敷瓦敷壁漆喰塗三方煉瓦壁  
ニシテ他ハ全部木造ナリベランダ一ニ面スル各室ノ前面ハ腰高  
硝子障子軸摺又ハ嵌殺シ窓ニテソノ各組子ノ間ニ復  
雜ナル支那風ノ絵様透彫ヲ有シ病室ノ建具トシテ不  
適當ナリ ㊦ノ二ノ階下各室ノ背面及階上最前オノ  
一室ノ背面ニハ窓ヲ設クル事ヲ得ズ

㊦ノ二中央ノ一室ハ階上階下打貫キナリ且鉄格子疊扉

ヲ有ス

西建物ハ手指付ベランダ一ヲ以テ ㊦ニ接續シ木製階段ヲ  
有ス

中庭及建物 ㊦ニ到ルマデノ空地ハ全部花崗石ノ敷石ヲ  
ナス

符号 ㊦

三方煉瓦壁其他ハ全部木造周囲ニベランダ一ヲ有ス  
階上ノ分手指付ナリ 床天井間仕切及各室ノ前面  
等符号 ㊦建物ノ各室同断ナリ

符号 ㊦

三方煉瓦壁其他木造床天井等凡テ符号 ㊦建物同  
断ニシテベランダ一ハ前面ノミニテ渡廊下ノ一オニ腐  
朽ニ近キ階段アリ右側ニハ壁付ノ廊下上ヲベランダ一

トシタルモノアリテソノ一部ニ厠ヲ設ケ渡廊下ニヨリテ通ズベシランター下ハ炊事場ニ使用スレドモ光線殆んどナク從テ本家ノ階下右側ノ室ヲモ暗湿ナランム大ナル渡廊下ニヨリテ符号⑧(ハ)建物ニ通ズ

符号⑩

三方煉瓦壁ナレドモ壁厚薄ク其他ノ結構粗雜ニシテ使用ニ堪エ得ル程度ノモノニテ相當ノ大修繕ヲ要ス左側壁付ノ廊下(吹抜)ニヨリ建物符号②ノ渡廊下ニ通ズ

符号⑨

境界ニ一オヲ支ヘラレタル屋根片流シノ仮屋ニテ殆んど使用ニ堪ヘズ床土間ナリ

符号①

煉瓦造平家床土間天井顯ハシナリ 本建物ハ一時炊事場ニ使用シタルモノ如ク煤ニ塗レ汚損甚ダシク又一時ハ牢獄ニ使用シタル如ク三方共側壁ハ即境界壁ニシテ窓ヲ有セズ光線最不充分ニシテ鬼気人ニ逼ルノ概アリ

其他符号①ト②ノ建物間左側壁付ニ附卸シ下家アリ又符号③(ト)建物前面ニ裏出入口ヲ挟ンデ煉瓦造水漕アリ同所右側壁付ニ煉瓦造ノ厠アリ

本建物ハ空キ室トナリシ以來軍隊ノ宿泊所トナリ時ニハ數百ノ將卒駐屯シ家屋ノ一部ハ時ニ殿トセンモノアリ目下尙軍隊ノ使用スル所ソレガ為メ益々建物ヲ汚損センノツキアリ然レドモ土地ハ比較的乾燥ニシテ木部ニ蟻害及大ナル腐朽等ヲ認メズ

欠莫及 適否

在来家屋ヲ病院ニ充用セントスルモノナレバ福州ニ於ケル  
モノ如ク敷地建物共不適當ナル莫多キハ止ムヲ得ザル  
所ナリ

左ニ欠莫ノ著シキモノト之ガ善後策トシテ模様替手法  
其他ヲ概述シテ本建物ハ病院ニ充用シテ適當ナルモノト  
認メントス

配置

甚シク長方形ノ敷地ニ漸次渡廊下ヲ以テ連

結セルモノナレバ交通各室ノ連絡不便ナリ

然レドモ各科ノ診察室及病室ヲ適當ニ安排

セバソノ不便ノ一部ハ除去スベク尚却テ便ヲ感ズルモ

ノナキニシモアラス 即婦人科ノ診察室ノ如キハ外

来患者ノ住来頻繁ナラザル奥室ニ設クル事

採光 全体トシテハ稍不充分ノ感ナキニアラザルモ亜熱帯

ヲ得ル等是ナリ

建物トシテハ忍バレサルニアラス

各個々ノ室ニ就テ去ヘバ左ノ如シ

⑧ノ階下左側ノ室稍不充分同右側ノ室ハ目下

境界壁ノ高サベランダ一ニ及ブヲ以テ甚ダ不充

分ナレドモ境界壁ヲ切り下ゲレバ採光充分ナル室

タラシメ得

⑨ノ階下右側ノ二室モ同断境界壁ヲ切下ゲ現在

ノベランダ一ヲ取除ケバ亦採光充分ナリ

⑩ノ各室甚ダ暗シソノニ才矩形ニ他業ノ通路ノ

屋根ヲ有スルモノアリ之ヲ除ク事ヲ得バ窓ヲ新設

シ右側ノ室ノ採光ニ便ニシ左側ノ室ハ後方ノ附卸家

全部ヲ取除カバ亦採光比較的豊富トナラン  
左側敷地界ノ境壁ハソノ一部ハ高サノ幾分ヲ減  
ジ得ベキモ充分ニ目的ヲ達スル能ハザルベシ

床  
符号①ノ階上ノ敷瓦ハ稍優良ナルモ他ハ凡テ浸  
透性ノ粗悪ナルモノナレバ非衛生的ナリ且ツ凹凸甚  
シク掃除ニ不便ナリ 尚多クノ室ハベランダト同高  
ナレバ之ニ模様替ヲ施シ掃除ニ便ニシベランダトヨリ  
一ニ寸上リノ床トスベキモノト思意ス  
然レドモ全然使用セラレズト云フニアラス

廁特設完全ノモノナク新設ヲ要ス

給水排水

給水ハ水道給水柱ヲ有シ尚必要ニ應ジ之延長シ得ベ  
ク排水ハ敷地々盤石敷ニシテ詳細ヲ知ルニ由ナキモ右側

空地ニハ下水溝アリ敷地ノ巾大ナラザルバ不都合ナシト認ム

施療病棟

福州ニ於ケル如ク施療病棟ヲコノ中ニ設置セントセバソノ出  
入口ニハ右側ノ露路ヨリ裏門ニ通ズルモノヲ以テシテ最後方ノ  
煉瓦造一棟ヲソノ診察室及病室トナスヲ最適當ト認ム  
病棟各室病室等ノ安排模様替及修繕等ハ目下設計  
中ニ屬ス

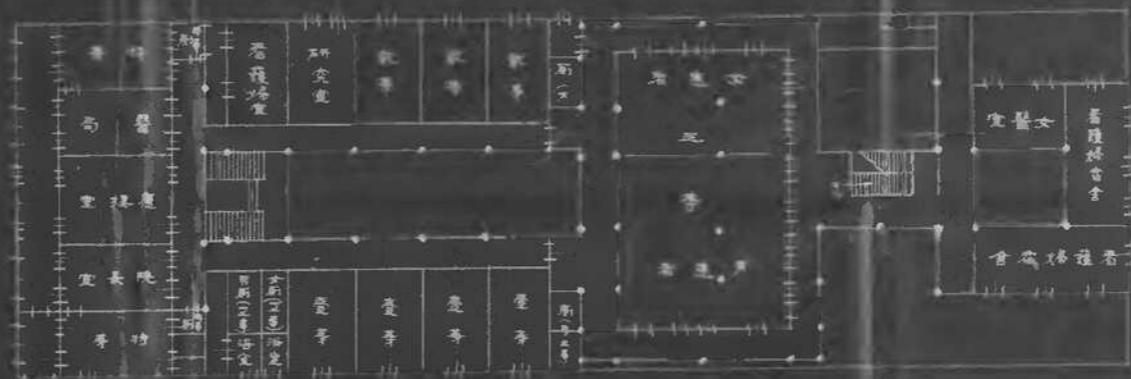
実測図及現場ニ於テ仮ニ計畫畫セル模様替平面図ヲ添  
付ス  
外ニ寫真三枚添付ス

圖面  
卷  
枚

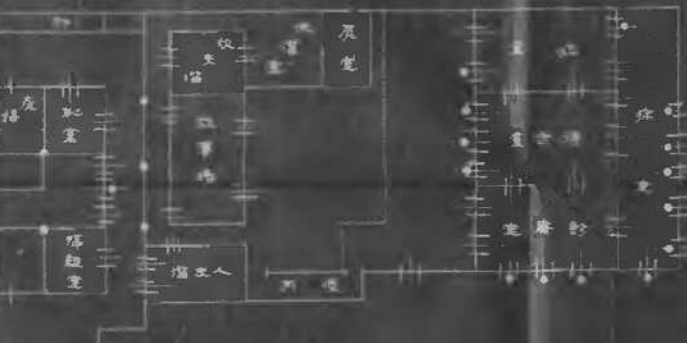
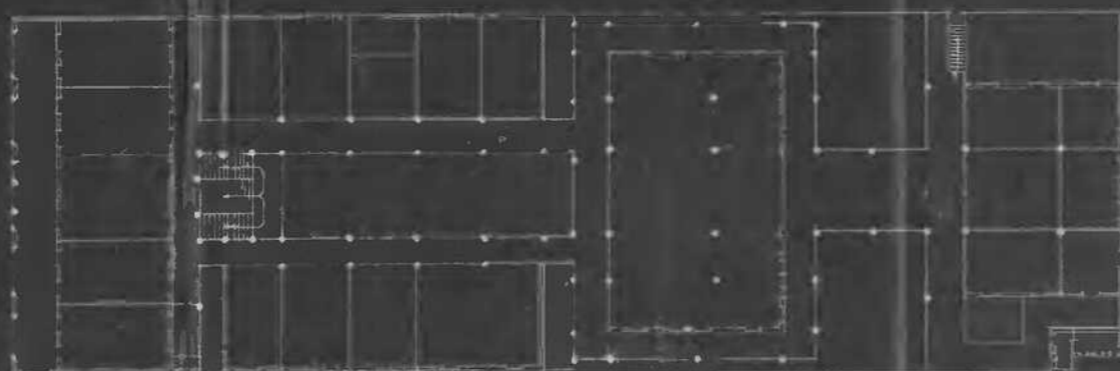
外寫真三枚  
在中

廣東舊警察署建物(模樣替圖)  
實測圖

警 署 頂  
面 平 上 階

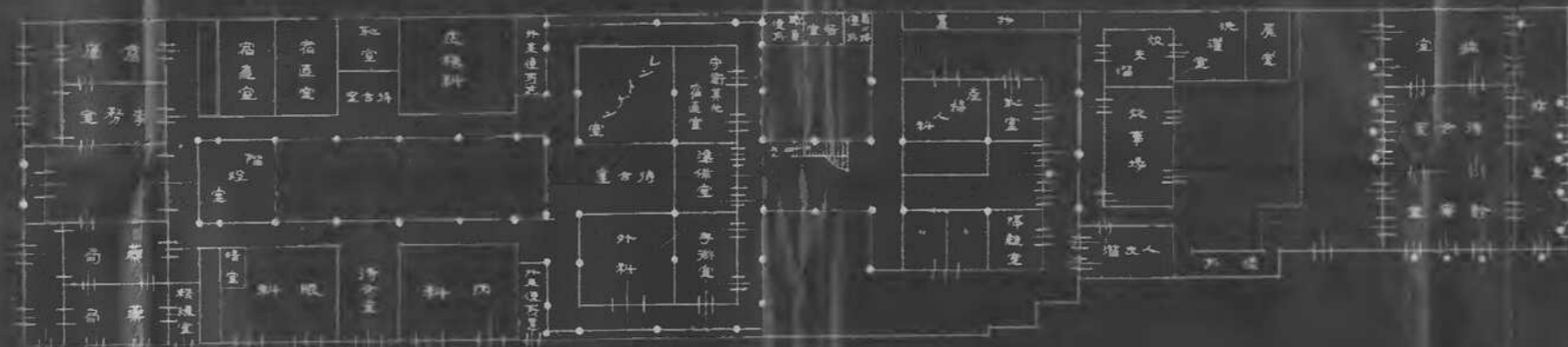


警 署  
面 平 上 階

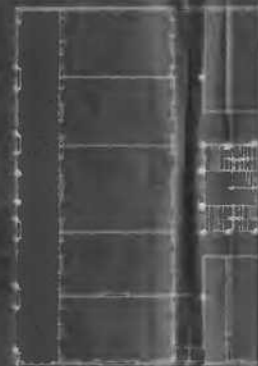
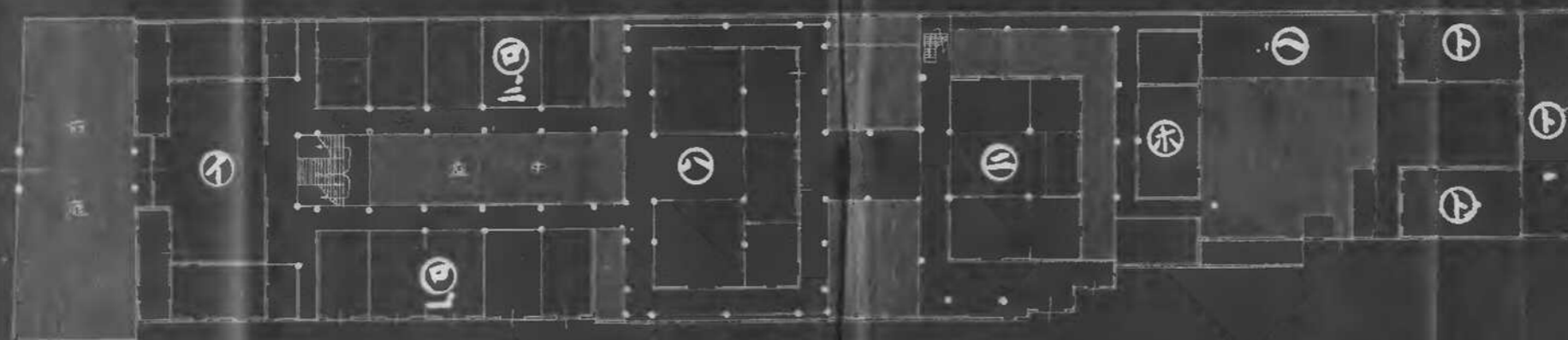




藝 様 校  
面 平 下 階



測 音  
面 平 下 階

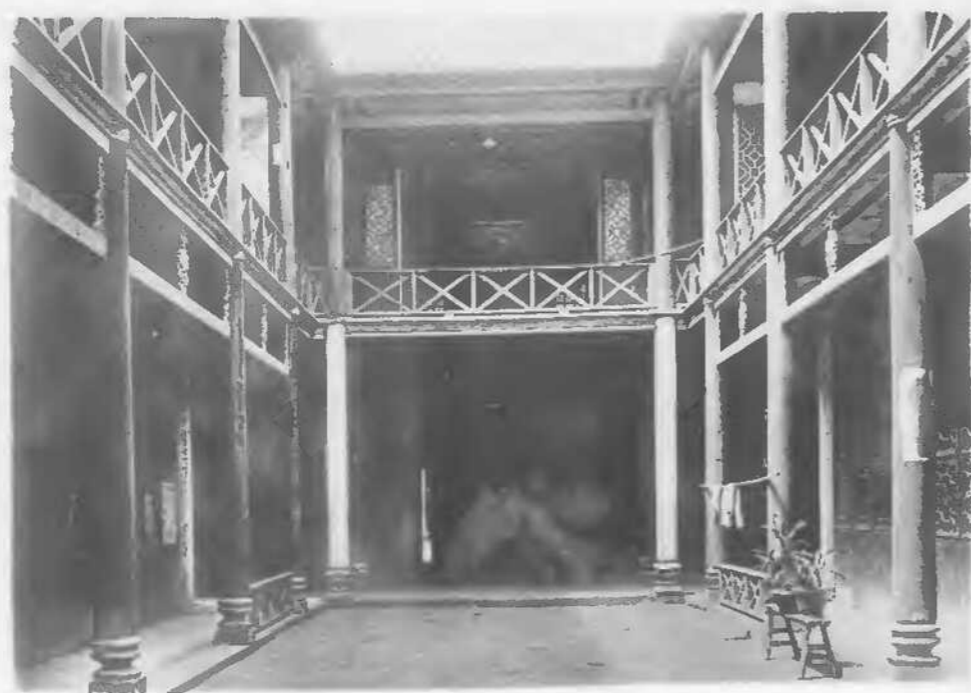


痛度、支用、建築、白面



善子口三、及正面、假書、了、記、云





甘子口二口三ヨリ甘子八ノ正回廊也